

平成21年6月10日

平成20年度決算概況について

横浜信用金庫(横浜市中区尾上町2-16-1 理事長 斎藤 寿臣)は、平成21年6月25日(木)の通常総代会において平成20年度の決算について報告します。

つきましては、「平成20年度決算資料」を添えてお知らせします。

1. 本決算のポイント

- (1) 58期連続黒字決算
- (2) 自己資本比率の上昇

2. 業 容

預金(譲渡性預金を含む)の期中平均残高は、前年度比3.32%増加し1兆3,871億円、期末残高は同2.36%増加し1兆4,160億円となりました。

貸出金の期中平均残高は、前年度比3.21%増加し8,574億円、期末残高は同1.75%増加し8,916億円となりました。

3. 損 益

経常収益は、前年度比10億84百万円増加し329億40百万円となりました。有価証券利息配当金や有価証券売却益が増加したことが要因です。

経常費用は、前年度比38億53百万円増加し298億10百万円となりました。景気の悪化や世界的な金融市場の混乱の影響を受けて、貸倒引当金繰入額や有価証券の償却が増加したことが要因です。

この結果、経常利益は、前年度比27億68百万円減の31億29百万円となりました。

また、本業の収益力を表わす業務純益(一般貸倒引当金繰入後)は、前年度比16億85百万円減の49億99百万円となりました。

当期純利益は、前年度比21億70百万円減の18億61百万円となりました。

これにより、昭和26年に信用金庫に組織変更して以来、58期連続の黒字決算となりました。

<不良債権処理費用>

	19年度	20年度	増減額
貸出金償却	57百万円	7百万円	△49百万円
個別貸倒引当金繰入額	535	847	311
債権売却費用	15	63	47
合 計	609	918	309

(参 考)

一般貸倒引当金繰入額	21	339	317
------------	----	-----	-----

(注) 貸倒引当金繰入額は個別貸倒引当金繰入額と一般貸倒引当金繰入額の合計額となります。

4. 諸比率

預金貸出金利鞘は、前年度比0.08ポイント縮小し0.89%となりました。貸出金利回が前年度比0.09ポイント低下の2.59%となりましたが、預金利回は前年度比横ばいの0.30%、経費を含めた預金原価率が同0.01ポイント低下し1.70%となり、預金貸出金利鞘は縮小しました。

総資金利鞘は、前年度と同じ0.26%となりました。資金運用利回が前年度比0.02ポイント低下の1.98%となりましたが、資金調達原価率も前年度比0.02ポイント低下し1.72%となり、総資金利鞘は変わりませんでした。

自己資本比率は、前年度比0.55ポイント上昇の10.78%となりました。国内基準(4%)はもとより国際基準(8%)も上回る高い水準を維持しています。

5. 不良債権

不良債権残高は前年度末に比べ微増しました。不良債権比率は信用金庫法基準が前年度の4.64%から4.65%に、金融再生法基準が前年度の4.60%から4.64%に上昇しました。なお、不良債権に対する担保・貸倒引当金等による保全率は92%を超えています。

6. 21年度計画

21年度の利益計画は次のとおりです。

①業務純益	60億27百万円	(前年度比	+10億28百万円)
②経常利益	20億30百万円	("	△10億99百万円)
③当期純利益	10億20百万円	("	△8億41百万円)

たしかな明日のお手伝い



横浜信用金庫

神奈川・東京に60店舗